

「東京における地域公共交通の基本方針（中間まとめ）」に関する意見募集の結果と都の考え方について

資料2

○意見募集の期間と件数

(1) 募集期間

令和3年12月21日（火曜日）から令和4年1月21日（金曜日）まで

(2) 意見総数

17通 98件

○第2章「東京の地域公共交通に関する現状・課題」関連

ご意見	都の考え方
<p>「公共交通機関の利用者の減少」は短期的な課題なのではないか。</p> <p>移動需要も人口も減少を前提に考えなければならない事を明記すべきと考える。</p>	<p>ご意見を踏まえ、2-2「東京の地域公共交通の課題」の表現を再整理しました。 (p.13)</p>
<p>「移動需要の回復・喚起、新しい日常への対応」は短期的な課題なのではないか。</p>	
<p>コロナ危機を契機に、これまでのビジネスモデルでは路線の維持は不可能</p> <p>テレワークの進展等による、移動需要の低迷及びその定着化懸念に触れることが必要ではないか。</p>	
<p>「データを活用したサービスの適正化・質向上の課題」は短期的な課題なのではないか。</p>	
<p>「交通事業者の生き残り」を、長期的な課題として認識すべきではないか。</p>	<p>ご意見の主旨は、2-2「東京の地域公共交通の課題」の「中・長期的な公共交通機関の利用者の減少への対応」の中で記載しております。 (p.14)</p>
<p>「新たなモビリティ事業者の台頭」を長期的な課題として認識すべきではないか。既存路線に更なるダメージを与えないよう、全体を俯瞰し役割分担を決め、統制する必要がある。</p>	<p>ご意見の主旨は、2-1「東京の公共交通の特徴」に現状を記載しているほか、5-2(2)「区市町村や事業者の取組促進策の充実」の中で、既存の移動手段との連携の必要性について記載しております。 (p.10, 47)</p>

○第4章「将来像の実現に向けた取組の方向性」関連

ご意見	都の考え方
『②区市町村連携』は『東京都と区市町村連携及び区市町村間連携』に修正すべきと考える。	ご意見を踏まえ、4-3②「区市町村間連携」の表現を再整理しました。(p.35)
都の役割として、地域公共交通の立ち上げ、は非常に大切な視点。特に、公共交通会議を開催しない市区町村に対する指導、専門部署のない中小自治体へのバックアップ、検討の充実・強化をお願いしたい。	ご意見の主旨は、4-4「将来像の実現に向けた各主体の役割」及び5-2(1)「広域調整に係る取組の推進」の中で、記載しております。(p.40, 46)
都の役割として、複数の区市町村に関係する課題を総括し、業界全体を支援するような取り組みの充実をお願いしたい。都内全体を俯瞰した目線で地域に優先順位をつけ、課題緊急度に濃淡ができると交通事業者も対応しやすくなる。	ご意見については、5-4「将来像の実現に向けた更なる検討」の中で、引き続き検討してまいります。(p.54～57)
「支援」については、都の役割にも追加すべき。	ご意見を踏まえ、4-4「将来像の実現に向けた各主体の役割」及び5-2(2)「区市町村や事業者の取組促進策の充実」の表現を再整理しました。(p.40, 47)
都の役割において、区市町が取り組む地域公共交通の持続可能な運行に向けて、支援策の構築も入れていただきたい。	ご意見を踏まえ、4-4「将来像の実現に向けた各主体の役割」及び5-2(2)「区市町村や事業者の取組促進策の充実」の表現を再整理しました。(p.40, 47)
区市町村は、交通空白の考え方を見直す時期であると感じる。行政として財力、労力をかける覚悟を持っていただきたい。	今後の取組を進めるにあたり、頂いたご意見を参考といたします。

○第5章「今後5年間の取組」関連

ご意見	都の考え方
区市町村の各種計画を、都が利用・活用し、基本方針の各種事業を前に進めるべき。	ご意見を踏まえ、5-1「『重点取組期間』の設定」及び5-2(2)「区市町村や事業者の取組促進策の充実」の表現を再整理しました。(p.45, 47)
区市町村の取組意欲を引き出し、主体的な取組を効果的に後押しする仕組みとあるが、どう「効果的」にするのか。	ご意見の主旨については、5-1「『重点取組期間』の設定」の中で、記載しております。(p.45)
「データを共有する仕組み」について、都がガイドラインや方針等策定頂き、モデルケースを作ることが望ましい。	ご意見については、5-4「将来像の実現に向けた更なる検討」の中で、引き続き検討してまいります。(p.54～57)
データ整備を考えるのであればシルバーパスは是非ともICカードすべきと考える。このままだと利用実態も動向も掴めない。	頂いたご意見は関係局と共有し、今後の取組を進めるにあたり、参考といたします。

ご意見	都の考え方
地域公共交通は脱炭素に大いに貢献できる施策。基本方針の中でもより具体的な施策を挙げるべきではないか。	ご意見の主旨は、4-1「理念と将来像に基づく取組の視点」の中で記載しております。(p.32)
EV 充電ステーションの設置促進および設置に関わる助成の検討などが必要になってくる。	ご意見を踏まえ、5-2(2)「区市町村や事業者の取組促進策の充実」に、ZEV 普及に向けたインフラ整備の支援策等の記載を新たに加えました。(p.47)
広域調整の観点から意見交換会や意向調査、移動課題を定期的に共有できる場やサイトなどがあるとよい。	ご意見の主旨は、5-2(1)「広域調整に係る取組の推進」の中で、記載しております。(p.46)
移動手段の充実（利便性向上）に加えて、移動する「きっかけ」・「目的作り」ができるとうい。	ご意見の主旨は、5-3「多様な主体との連携による地域公共交通を支える仕組みづくり」の中で記載しております。(p.52, 53)
重点取組期間での実施事項に「生活支援サービスの拡充」の観点を加えるべき。	ご意見を踏まえ、4-3④「交通需要マネジメント・結節機能向上」の表現を再整理しました。(p.37)
福祉系主体の外出促進事業と連携した取組も期待する。	
免許返納についてはサポート協議会加盟事業者への何らかの支援があつていいと考える。	今後の取組を進めるにあたり、頂いたご意見を参考といたします。
地域間幹線システムの確保・維持とともに、活性化を図る上でも、手厚いご支援を引き続きお願いしたい。	今後の取組を進めるにあたり、頂いたご意見を参考といたします。
シルバーバスが、民間バス、コミュニティバスにとって負担になっている。基本方針でシルバーバスに一切触れていないのは違和感。是非、触れて欲しい。	頂いたご意見は関係局と共有し、今後の取組を進めるにあたり、参考といたします。
都の役割として、シルバーバスの再整理も行うべき。シルバーバス制度を維持するのであれば、利用者負担を見直す必要性を強く求めたい。	
サービスと負担のあり方等についても検討が必要	
デマンド交通などの検討にあたっては、既存の地域公共交通網との共存を図り、持続可能となるよう配慮いただきたい。	基本方針は、地域ニーズに合致した持続可能な取組を関係者で進めるための指針として策定するものです。
コミュニティバスの導入に際しては、区市町村による適切な負担が必要であり、また既存路線バスとの共存という公共交通全体を見通した議論が必要	ご意見の主旨は、5-2(2)「区市町村や事業者の取組促進策の充実」、5-3「多様な主体との連携による地域公共交通を支える仕組みづくり」の中で、記載しております。(p.47, 53)